

新風

平成27年1月29日
多治見市立陶都中学校
No.10

多治見っ子による「多治見市連合生徒会」

多治見市立陶都中学校 校長 松山 ひろし 央

昨年末からのインフルエンザ流行もようやく収束に向かいつつあります。各ご家庭での予防対策や学校の早帰り対応へのご協力など、誠にありがとうございました。ただし、いつもならこれからが流行期。学校では、引き続き注意を払っていかねばならないと考えています。

さて、今、私の手元には、1月7日に本校で行われた「第17回連合生徒会のまとめ」が届いています。この連合生徒会につきましては、先日新聞にも報道されご存じの方も多いかと思われますが、その会に参加した各校の生徒会代表の子達の感想には、見るべきものがたくさんありました。以下にその一部を紹介させていただきます。

- ・学校を代表するリーダーとしての誇りや責任を、身なりから感じ取ることができる人が多かったです。私たちが学校のイメージをつくっていると自覚しました。
- ・他校には尊敬できる人もいました。発表の場で発表できる人、言われなくても自主的に動く人、誰でもあいさつできる人など、なかなかできないことができる人がいることがすばらしいと思いました。自分もそうになりたいです。
- ・交流することで「また、がんばってみよう！」という勇気をもらいました。
- ・連合生徒会に参加した一人として、仲間へ、後輩へと、熱い想いをもって伝えていきたいです。



私自身、この連合生徒会に立ち会うのは、昨夏と今回で2回目となります。夏は前期の生徒会役員、今回は後期役員と、子ども達の顔ぶれは大きく違っているのですが、どちらもすばらしいものでした。昨夏、私は初めてということもあったのですが、この会の印象が大変強く残り、その意義について様々な思いが浮かびました。ちょうど夏の中体連の試合観戦で動き回っていたときだったので、これは「もう一つの市内大会だ！」と感じ、そこで繰り広げられる各校の発表や話し合いに耳を傾けました。「多治見市立陶都中学校宣言」の項目に関わる各校の取組発表。そして、それを受けての次回の重点項目を決めるための話し合いと続くのですが、発表の内容もさることながら、臨機応変にやりとりし、建設的に意見を出し合っていく様には脱帽でした。さすが、各校のリーダーだと感心しました。そして、何よりもこの会に参加している生徒達自身が大変貴重な体験を行っていると感じました。部活の試合と同じように、他校の優れた存在を肌で感じ、大きな刺激を受けているはず。「あいつすごいな」、「あんな子がいるんだ」と同世代同士で感じるこの思いは、どれほど自分自身を成長させることでしょう。そんなことを感じていただけに、参加した子ども達の感想を今回改めて目にする事になり、なるほどという思いを強くしました。市内に8校の中学校があるというこの規模も大切な環境だと感じます。聞くところによると、随分前に行われていたこの会が、何年か前に復活したとのこと。毎回、この会をしつらえるまでの準備は大変でしょうが、多治見市ならではの会として、長く続き、この会からたくさんの刺激を受ける多治見っ子が生まれていくことを期待します。そして、その子達の中から、多治見で育ち、多治見に戻り、いずれ市のリーダーとして活躍してくれるような人が出てくるならば、そんな素敵なことはないと考えます。

本校の生徒会活動については、この紙面でも何度か触れさせていただきました。正に学校を引っ張る機関車として活躍をしておってくれます。昨年度は、この紙面で生徒会役員の紹介があったことを、「保護

者アンケート」でのご指摘で知りました。申し訳ありませんでした。遅まきながら、後期の生徒会役員のメンバーを下記に載せさせていただきます。よろしくお願いいたします。先述の1月の連合生徒会では、この執行部8人の子達がホスト校役として大活躍してくれました。

なお、保護者の皆様をお願いいたしました「保護者アンケート」ですが、ご協力、誠にありがとうございました。皆様からの学校に対する評価及びご意見につきましては、只今、校内で集計を進めているところですが、学校内での「自己評価」も含め、来年度の学校経営構想を構築していく上での参考にさせていただきたいと思っております。「保護者アンケート」の集計結果は、後日この紙面にてお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

平成26年度 後期 生徒会執行部のみなさんです。

生徒会長	濱部 玲央	執行委員	遠藤 慶人
副会長	平出 廉	執行委員	北市 健太郎
副会長	小谷 貴大	執行委員	金子 尚矢
		執行委員	水野 泰一
		執行委員	亀山 美涼

平成26年度 後期 生徒会委員長のみなさんです。

整美委員長	下野 真瑚	合唱委員長	中稻 梨乃
学習委員長	安藤 由貴	生活委員長	小栗 怜奈
図書委員長	土屋 亜香里	給食委員長	加藤 夕季
保健委員長	三浦 幸紀	情報委員長	石川 空昌

はき物をそろえる

多治見市教育委員会

どの学校でも、子どもたちが下足箱に「はき物（上ばきや外ばき）をそろえて入れる」ことを大切にしています。

学校の昇降口（下足箱のある場所）は、屋外と校舎内との場や意識を切り替える大切な場所です。いつも気をつけていなければ、汚れや乱れがあたりまえになっていきます。また、昇降口のみならず、学校の学習環境を整えることは、学習や活動に集中できるようにしたり、落ち着いた集団生活をしたりするために重要なことです。

はき物をそろえるのは、まわりの環境をきれいにする第一歩と考えます。各ご家庭におかれても大切にされていると思いますが、玄関などで「はき物（靴など）をそろえて」室内に入ることを子どもと一緒に考えて、大切にしていけたらいいのではないでしょうか。

※紙面の関係で月予定は別刷りで配布しました。